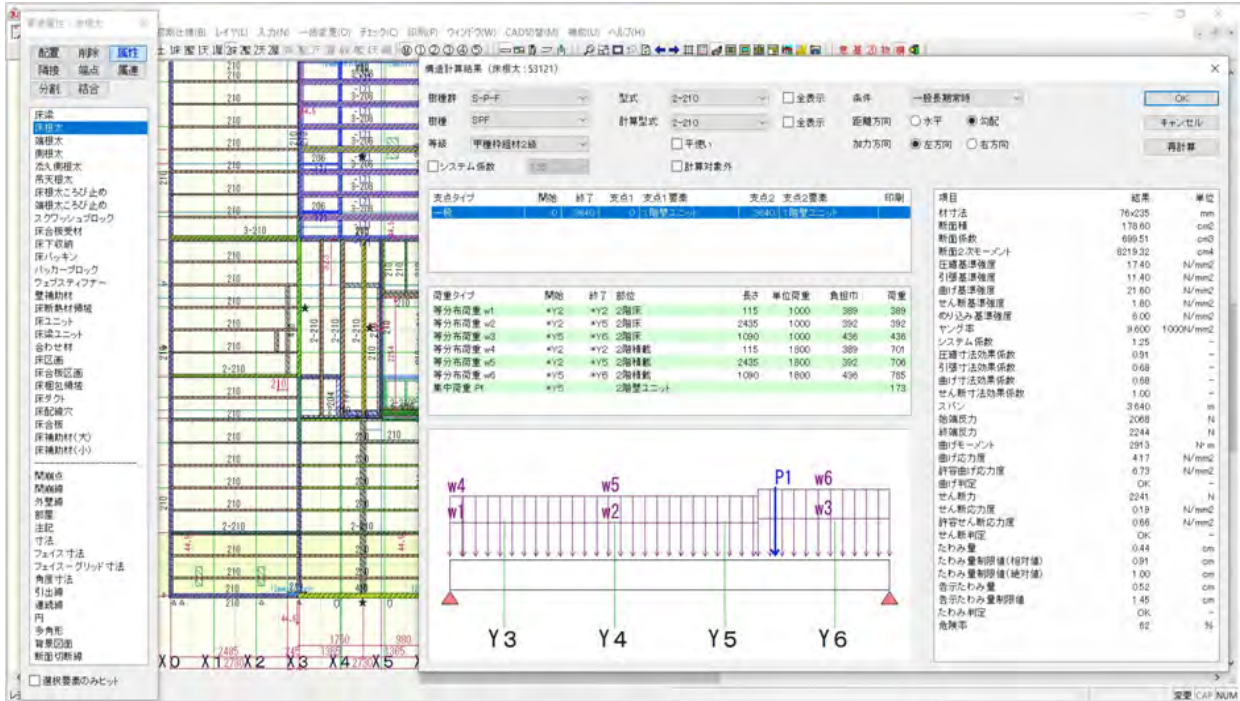


プレカットCADのDX化を促すイノベーション ネットイーグル(株)



構造計算画面 (XF24/NSC24)

新設着工戸数の伸び悩みや非住宅分野の市場拡大、建築基準法の改正、ユーザーやニーズの多様化など木造建築業界を取り巻く状況は時々刻々と変化している。

そうした中、2025年には、建築基準法改正による4号特例縮小と確認審査対象の見直しや、木造建築物を含めた一定規模以上のプロジェクトにおいてBIMを活用した確認申請が試行されるなど、いわゆる「2025年問題」が目前に迫り、木造建築業界は大きなターニングポイントを迎えようとしている。

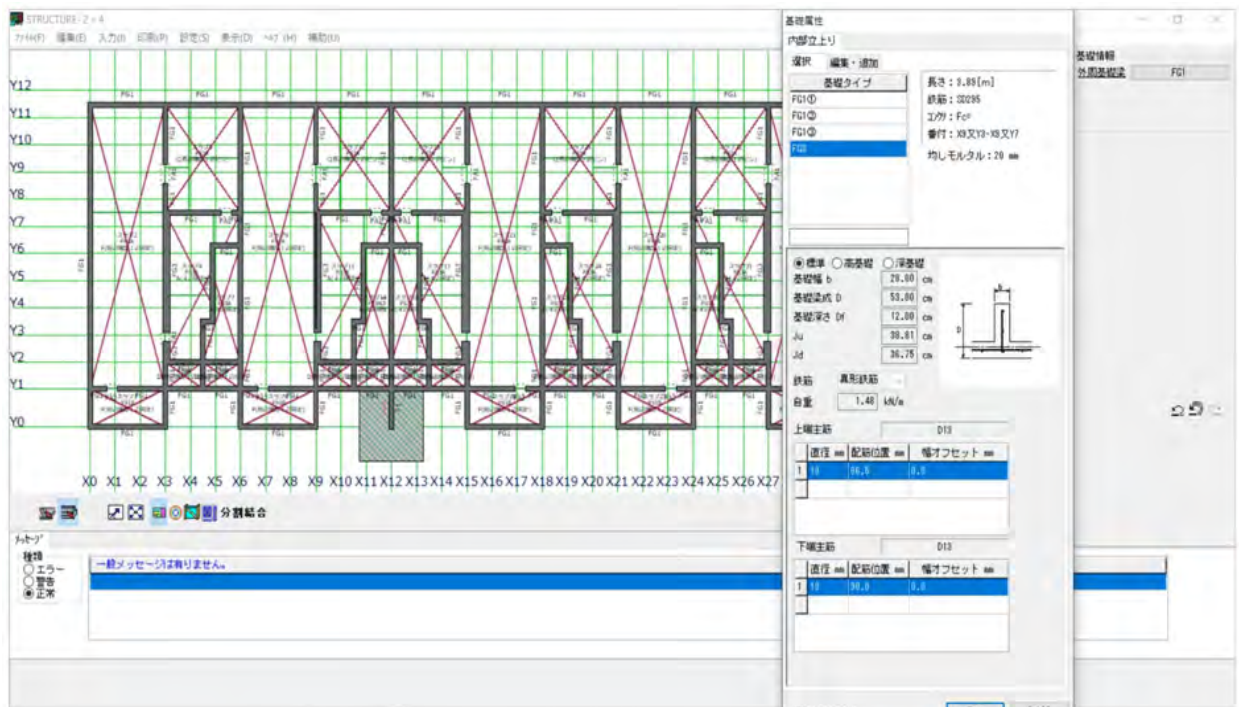
こうした木造建築業界の現況を踏まえ、木造プレカットCAD/CAMシステム大手のネットイーグル(株) (福岡県福岡市、祖父江久好社長) では、完全自社開発による構造計算 (許容応力度計算・ルート1) システム「NSC: Neteagle Structural Calculation」シリーズの開発 / 販売を9月から開始したほか、BIM

連動及びIFCデータ変換サービスもスタートさせた。

6住戸アパートなども構造計算が必要に

同社の非住宅プレカットCAD「XF15」と直結連動する構造計算システム「NSC15」については前号 (プレカットユーザー Vol.60) で紹介したところだが、2×4プレカットCAD「XF24」と直結連動する同システム「NSC24」についても2025年問題を見据えて引き合いを増やしている。

改正建築基準法が施行される2025年4月以降は、構造計算を必要とする建物の大きさが「500㎡超え」から「300㎡超え」に改正される。このため、最も一般的な2階建て3戸並びの6住戸アパートなどは大多数がこの対象となる。大手企業の中には構造計算対象物件が2.5倍に



基礎の計算画面（基礎CAD/NSC24）

もなるという。こうした急増が予測される構造計算について、負担軽減を図りたい住宅会社や設計事務所などで「NSC24」を新規導入するケースが多くなっている。

NSC24はXF24の構造プレカットCADデータと基礎設計が行える同社開発の「基礎CAD」のデータを使うため、構造躯体から基礎まで一体的に構造計算できるほか、構造計算の結果と構造図とプレカットの加工内容と（齟齬がなく）完全に一致する。基礎まで一体的に構造計算ができること、齟齬の無いデータが作れること、これがプレカット業界初の同社の大きな特長（強み）となっている。

現在、同社ではNSC15とNSC24に引き続き、ベストセラーの在来軸組 / 金物工法プレカットCAD「Xstar」と直結連動する（完全自社開発）構造計算システム「NSC-Xstar」を来年4月の発売リリースに向け着々と開発が進められている。

なお、これらの構造計算システム「NSC」シリーズは設計事務所向けに従来のレンタル方式（月間利用料）に加え、サブスクリプション方式（年間契約）でも利用可能となっている。

BIM連動とIFCデータ変換サービス

国土交通省では、BIMデータから出力されたIFCデータ（3D）とPDF（2D）を同時提出する「BIM図面審査」を2025年から開始し、2027年度に全国展開することを目指している。こうしたBIMの普及に向けた動きは木造建築業界においても加速傾向にあり、中高層木造ビルなどの非住宅木造分野に新規参入するゼネコンや設計事務所等で、意匠～構造～設備設計にBIM-CADが使われるようになってきている。

こうした動向を受け、同社では全てのプレカットCAD（XF15/XF24/Xstar）についてBIM連動及びIFCデータ変換サービスを10月からスタートさせた。同社のプレカットCADデータをIFCデータに変換し、IFCデータをBIM-CAD（Revit等）に取り込めば、意匠～構造～設備まで一元管理ができるようになり、構造の納まり確認や設備との干渉チェックなども容易に行えるようになる。BIM連動など、同社はプレカット業界のDX化を最先端で開発推進している。